

ほったのさくあと 弘田柵跡 ガイドマップ

しんざん
真山 編

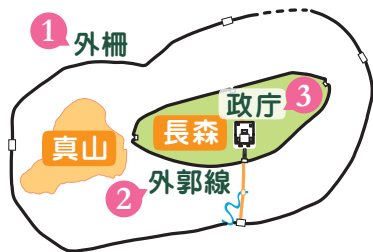
10. / がいさく 外柵西門

真山の西のふもとに、外柵西門がありました。

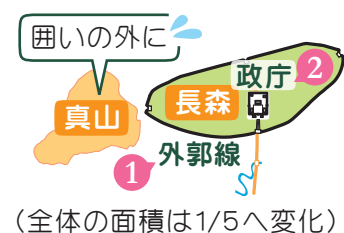
9世紀中ごろ、柵の修理が必要になりました。しかし、外柵は修理されなかったのです。

このときから弘田柵跡は、がいさくせん せいしやう「二重の柵」へと形を変えました。真山は、囲いの外になってしまいます。

9世紀初め…三重の柵



9世紀中ごろ…二重の柵



真山の変化 古代 ▶▶ 中世

弘田柵跡の役割が終わるのは、10世紀後半です。

13世紀の鎌倉時代以降、真山は大きく形を変えます。中世のお城「堀田城」ができるのです。

山の斜面を段々に削ったり、曲輪がつくられたりしました。さらに外側を水のない空堀や、土を積み上げた土塁で囲み、敵の攻撃にそなえました。

真山の上からは、広大な横手盆地が一望できます。

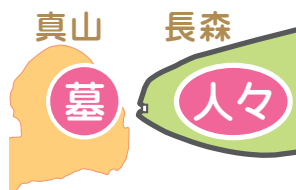
時代で変わるお墓の位置

古代

高梨神社の周辺から、10世紀前半ごろのお墓が見つかりました。神社のある部分は発掘できませんが、他のお墓もある可能性があります。

弘田柵跡では、古代のお墓が発見されたのは真山だけです。

囲いの外になってしまった真山は、埋葬場所として使用されていたのでしょうか。



中世

13世紀以降のお墓が、長森の西側から発見されました。今度は堀田城の外にあたる長森が、埋葬場所になったのです。

古代と中世では、真山と長森の役割が逆になったと言えます。

